

令和6年度 田園自然再生活動の集い

開催要領

- 日時：令和6年12月11日（水） 13：00～16：45
- 場所：国立科学博物館 日本館「講堂」（対面・WEB 配信併用）
（東京都台東区上野公園7-20 上野公園内）
- 主催：（一社）地域環境資源センター、田園自然再生活動協議会
- 後援：農林水産省、環境省、全国農村振興技術連盟、（公社）農業農村工学会、
農村計画学会、棚田学会、（一財）日本グラウンドワーク協会
- 参加対象：農家、行政、土地改良関連団体、地域活動組織、NPO、学生、民間企業等
- 定員：会場（100名）、WEB（300名）
- テーマ：田園自然再生活動の集い ～自然と生きる～
- 主旨：

地球での生命の誕生以来、生物は環境に依拠し、環境の変化に適応するため進化を続けてきました。長い進化の過程を経て狩猟採集生活を送っていた人類は、自然の操作である農耕による食料生産を始め、さらに大量の余剰農産物を蓄えることで、多くの人間が集まる文明社会を築き、その興廃を繰り返しながら、今日までの歴史を刻んできました。

今日でも人間の活動は、自然の一部として、食料や水の供給、気候の安定など、生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵み（「生態系サービス」）によって支えられています。しかしながら、人間の過度な営みによる森林伐採、大規模開発、環境破壊、さらにそれらがもたらす大気汚染、水質汚濁、土壌や海洋の汚染などが、生態系サービスの基盤となる自然環境や生物多様性に大きな影響を及ぼすことも懸念されています。

加えて、近年では、暴風、豪雨、豪雪、洪水、地震などの人的被害を伴う自然災害が激甚化かつ頻発化して発生したり、野生鳥獣が人間の生活、生産の場に頻繁に出没するなど、「自然と生きる」上でのリスクが重大化、顕在化している側面もみられるようになってきました。

そこで、今年度の田園自然再生活動の集いでは、「自然と生きる」をテーマに、自然資本から得られる恩恵を後世に渡って享受し続けるための農業等の営みの在り方や、自然災害や野生鳥獣によるリスクに対峙しつつ自然の中での営みや暮らしの在り方について改めて見つめ直し、これからの田園自然再生活動についてのヒントを探ります。

●実施内容：シンポジウム「令和6年度田園自然再生活動の集い」

<プログラムと出演者>

- 1 主催者挨拶 JT 生命誌研究館 名誉館長／田園自然再生活動協議会 会長
中村桂子
 - 2 来賓挨拶 ・農林水産省 農村振興局 整備部
・環境省 自然環境局 自然環境計画課
 - 3 基調講演 ・総合地球環境学研究所 特任教授 荘林幹太郎 氏
題目「『私たち生きものの中のわたし』をどのように政策に反映させるか？
～昨年度の基調講演を踏まえての一政策研究者の反省～（仮題）」
・兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授 山端直人 氏
題目「これからの地域社会のための野生動物と人の関係（仮題）」
 - 4 パネルディスカッション
コーディネーター 総合地球環境学研究所 特任教授 荘林幹太郎 氏
コメンテーター JT 生命誌研究館 名誉館長 中村桂子 氏
兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授 山端直人 氏
(一社) 地域環境資源センター 理事長 林田直樹
- パネリスト・事例紹介
- (1) 照井土地改良区 工務課長兼換地課長 遠藤圭二郎 氏
「次世代へ繋ぐ一閑遊水地の取組」
 - (2) 株式会社坪口農事未来研究所 代表取締役 平峰英子 氏
取締役 平峰拓郎 氏
「コウノトリ育む農法の未来（環境配慮型農業から環境再生型農業へ）」
- 5 情報交換会（希望者のみ）

●問合せ事務局：

(一社) 地域環境資源センター 田園自然再生活動事務局

住 所：〒105-0004 東京都港区新橋5-3-4 農業土木会館6階

電話番号：03-5425-2461 / FAX 番号：03-3432-0743

メールアドレス：denen-saisei@jarus.or.jp

URL： <https://www.jarus.or.jp/>